

ウェブサイト「国際平和拠点ひろしま」への不正アクセス に係る対応状況について

1 要旨・目的

令和6年12月30日（月）に発生した、ウェブサイト「国際平和拠点ひろしま」への不正アクセスについて、発生後の経過や今後の復旧に向けた方向性について報告する。

2 現状・背景

12月30日に不正アクセスが発生して以降、ウェブサイト公開等の停止や会員等に対する注意喚起などの初動対応、県警と連携した原因究明を踏まえながらウェブサイト再開に向けた復旧対応を行っている。

区分	対応内容
被害拡大防止 に向けた 初動対応	令和6年12月末 30日早朝、個人情報に掲載された不審メールのメルマガ登録者への送信及びウェブサイトのページ内容改ざんを確認。 - 同日、不審メールに個人情報に掲載された3名に謝罪。ウェブサイト公開とメルマガ発信を停止するとともに、SNSでの現状報告と注意喚起を実施。 - 一部のメルマガ登録者に、メールで謝罪と注意喚起を実施。 令和7年1月上旬～中旬 6日、個人情報に掲載された不審メールが届き、掲載された1名に翌日謝罪。 8日、漏えいした可能性のある会員情報等を復旧し、メルマガ登録者及びプラットフォーム企業団体（累計3,858名）に、メールで謝罪と注意喚起を実施。 - 同日、県公式HPに、不正アクセスにかかる最新情報と注意喚起、問い合わせのためのQ&Aを掲載。 14日、ウェブサイト会員登録者に対してパスワードの暗号化がされていたこと及び技術的な復元に関する継続調査について周知（累計3,705名）。プラットフォーム企業・団体についてはパスワードの暗号化がされていないことが判明したため、改めての注意喚起を実施（153企業・団体・担当者）。
ウェブサイト 再開に向けた 復旧対応	令和7年1月下旬 - 警察の捜査への協力を通じた、不正アクセス原因の究明。 - 不正アクセス原因を踏まえた再発防止対策をとった状態での、外部サイトを活用したウェブサイト再開の可能性を検討。 - 県公式HP上でのウェブサイト再開の可能性を検討。 - ウェブサイト再開に当たって、早期に復旧すべき記事を洗い出し。 令和7年2月上旬～中旬 - 警察の捜査への協力を通じた、不正アクセス原因の究明。 - 早期復旧予定記事に必要な画像や文章データの整理を開始。 - 被爆・終戦80年特設サイトの開設に向けた検討を開始。

3 概要

(1) 被害状況

ア 漏えいした可能性のある個人情報

(ア) ウェブサイト「国際平和拠点ひろしま」会員登録の際の入力項目
名前（ニックネーム）、年齢、居住都道府県／居住国（住所は任意）、
メールアドレス、パスワード（暗号化）

(イ) 当該ウェブサイトにより参加申込を行ったイベント（経済人会議等）申込時の項目
氏名、フリガナ、所属、参加者役職名、所属住所（県内・県外・国外から選択）、
電話番号、申込者（本人／代理）、申込者との関係等、メールアドレス、参加予定日

(ウ) へいわ創造プラットフォームひろしまの登録団体（企業/団体）申込時の入力項目
企業団体名、住所、電話番号、ホームページURL、担当者所属、担当者氏名、
メールアドレス（代表メールおよび担当者メール）、パスワード（非暗号化）、
企業団体の取組（事業内容やSDGsに関する取組等）

イ メールマガジン登録者への不審メールの送付

ウ ウェブサイトのバックアップデータが奪取された可能性

(2) 不正アクセス及び個人情報漏えいの原因【警察の捜査状況】

ア 現在も調査中であるが、ソフトウェアの脆弱性を利用した攻撃により、サーバーに不正アクセスされた可能性が高い。

イ 同一サーバー上の会員情報やホームページを管理するシステム（CMS）に保存されている記事コンテンツに加え、会員情報などバックアップ用に保存されていたデータベースファイルにアクセスされたことにより、個人情報が奪取されたと考えられる。

ウ 犯人については、警察が引き続き捜査中である。

4 復旧の方向性

ウェブ上での発信が全くできていない状況を解消し、被爆・終戦80年に向け、広島から平和への発信を早急に進める必要がある。一方、セキュリティ対策やバックアップ体制を盤石にし、再発防止する必要があるが、その構築に時間を要する。

上記理由から、県公式HP上での復旧を検討している。ただし、ウェブサイトに掲載していたすべての記事データがバックアップを含め奪取され、復旧に時間を要することから、令和6年度中は重要施策や関心の高い取組の記事を優先して緊急的に復旧する。

なお、「被爆・終戦80年特設サイト」についても、県公式HP上で令和6年度中に開設予定。

5 今後のスケジュール

2月17日（予定）：県公式HP 平和推進PTのページで発信を再開